

ダニエル書 - 第十六号

記号

Jeff Pippenger

2023-12-11

ダニエル書第3章に入る前に、その章をより十分に理解するうえで役立つかもしれないいくつかの予言的象徴について考察する。ダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤは、彼らが用いられている文脈に基づいて、特定の予言的象徴を表すために聖霊によって用いられている。第1章では、彼らは区別なく四人の優れた者として示されているが、章の終わりで、ダニエルは「すべての幻と夢を悟る」という賜物を持つ者であることが明らかにされる。

この四人の若者たちには、神があらゆる学問と知恵において知識と技能をお与えになった。また、ダニエルには、すべての幻と夢を悟る力が与えられた。ダニエル書 1:17.

第1章では、「四」という象徴として、彼らは世界中にいる終わりの時代の神の民を表している。「四」は世界全体を表す象徴であり、すべての預言者は終わりの時代について語っている。第1章の四人の義人は終わりの時代の神の民を表しており、17節では、ダニエルと三人の義人とが初めて区別され、これが「三と一の結合」という象徴を表している。

「三と一の組み合わせ」の象徴は、靈感によって与えられた言葉の中に繰り返し見いだされる。それは文脈に応じて、いくつかの真理を表している。これは、1798年の「終わりの時」に始まり、猶予期間の終わりに至る三天使のメッセージの歴史を表している。三つのメッセージはすべて第一の天使の運動の中に表され、その運動に黙示録18章の第四の天使が続く。ゆえに、「三と一の組み合わせ」となる。

ある文脈では、それは、ミラー派の歴史における第一の天使のメッセージの運動を数字の1で、第三の天使のメッセージの運動を数字の3で表す組み合わせとして捉えることができる。したがって、「三と一の組み合わせ」は「一と三の組み合わせ」としても表されうる。象徴的な「三一の組み合わせ」は、1が3に先行する場合でも、3が1に先行する場合でも、象徴として機能する。ダニエル書3章のネブカドネザルの炉では、私たちはまず三人の勇士を見、ついで神の子のような第四の者を見る。

そしてこの三人、シャデラク、メシャク、アベデネゴは、縛られたまま、燃え盛る火の炉のただ中に落ちた。そのとき、王ネブカドネツアルは驚いて、急いで立ち上がり、顧問たちに言った。「私たちは縛られた男を三人、火のただ中に投げ入れなかったか。」彼らは王に答えて言った。「確かにそうです、王よ。」彼は答えて言った。「見よ、私は四人の男が縄を解かれて火のただ中を歩き回っているのを見ているが、彼らは何の害も受けていない。しかも、四人目の姿は神の子のようだ。」ダニエル書 3:23-25.

疑いなく、第3章の金の像の礼拝の儀式にダニエルが出席していなかった理由を私たちに教えてくれる、まことに神的な理由と正確な歴史的事実がある。しかし、予言的な理由の一つは、もしダニエルが出席していたなら、火の炉における三と一の組み合わせという

預言的象徴を損なってしまっただろうということである。ギデオンの場合は、ギデオンと百人からなる三つの隊であった。キリストもしばしば三人の弟子と共におられた。

六日の後、イエスはペテロとヤコブと、その兄弟ヨハネを連れて、彼らだけを高い山に登られた。そこで彼らの前で御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、衣は光のように白くなった。マタイによる福音書 17章1、2節。

一と三、あるいは三と一。いずれも同じ象徴である。というのも、それらは皆、終わりの時代のある予言的要素を表しており、そして終わりの時代とは裁きの時代だからである。裁きの時代は1798年に始まり、1844年10月22日に調査審判が開始されるとの宣言がなされた。そして裁きの時代は、間もなく来る日曜法によって人類の恩恵期間が閉じ始める時まで続き、神の執行の裁きが始まって段階的に激化し、やがて恩恵期間が完全に閉じて最後の七つの災いが起こるに至る。ネブカドネツアルの炉においては、のちにキリストが加わった三人の若者が、旗印を表している。金の像の奉献式には、ネブカドネツアルの帝国を構成するすべての諸国が参列していた。

彼は遠方の諸国民に向けて旗印を掲げ、地の果てから彼らを口笛で呼び寄せる。見よ、彼らは急いで、すみやかにやって来る。イザヤ書 5:26

ダニエルの捕囚の七十年は、認識すべきもう一つの重要な象徴であり、靈感を受けた御言葉の中に繰り返し見いだされる。エホヤキムからキュロスに至るまでが、ダニエルの捕囚の実際の七十年を表している。歴代誌下では、その七十年は、地が安息しその安息を享受する期間を表している。イザヤ書二十三章では、その七十年は、1798年から日曜法に至るまでのアメリカ合衆国の歴史を表し、その際、共和主義の角と真のプロテスタント主義の角の並行する歴史も表している。ホワイト姉妹は、この七十年を教皇制の暗黒時代の1260年と対応させている。

「今日、神の教会は、失われた人類の救いのための神の御計画を、成就に至るまで推し進める自由を与えられている。幾世紀にもわたり、神の民は自由の制限に苦しんだ。純粋な福音の宣教は禁じられ、人間の命令に敢えて背く者には最も厳しい刑罰が科せられた。その結果、主の偉大な道徳的ぶどう園は、ほとんど人の手の入らない状態であった。人々は神の御言葉の光を奪われていた。誤謬と迷信の間が、真の宗教の知識を消し去ろうとしていた。地上にある神の教会は、この容赦のない迫害の長い期間、捕囚の時代にバビロンで囚われの身となったイスラエルの子らと同様に、まさしく捕らわれの状態にあった。」『預言者と王』714ページ。

七十年が象徴として暗黒時代の一十二百六十年も表すのだと理解されれば、暗黒時代を象徴的に表す「三年半」や「四十二か月」、あるいは「一時と二時と半時」という比喩が、象徴としての七十年の意味と適用をいっそう広げることになる。

ダニエル書では、七十年は、第一のメッセージが力を受けてから裁きに至るまでの期間として示されている。その期間はあらゆる聖なる改革運動に存在しており、このようにして、七十年は時間という要素を強調するのではなく、その期間の目的に関わる他の真理の筋道を表している。例えば、七十年の期間は、マラキ書では契約の使者がレビの子らを清める期間として表されている。ホワイト夫人は、マラキ書におけるレビの子らの清めをキリストの二度の宮清めと結びつけた。同じ期間は、十四万四千人の封印の時期でもある。

. また、その期間は後の雨が段階的に注がれる時期でもある。同じ期間は、獣の像の試練の時でもあり、それが獣の印へと導く。その期間はまた、日曜法へと至る予言的な「備えの日」であり、その日曜法はまた「安息日の日」でもある。その期間には、散らしの時期と集めの時期が含まれており、どちらも「七つの時」の要素である。

ダニエル書において、エホヤキムは第一のメッセージが力を受けることの象徴である。彼の後に続く二人の王との関係において、彼は裁きへと導き、裁きで終わる三人の天使のうちの第一の者にすぎない。キュロス日曜法の象徴であるだけでなく、解放の「しるし」にも当たる。ダニエルは三と一の組み合わせの一要素であり、また神の民の四重の世界的表象の一部でもある。ダニエルはまたエリヤの使者の象徴であり、さらにヨハネの黙示録のヨハネをも型どっている。彼はまた、神の印を受ける者たちの象徴でもある。「ダニエル」という名は「神の裁き主」あるいは「裁きの神」を意味するので、彼はゆえに裁きの象徴であり、またラオデキヤの象徴でもある。というのは、ラオデキヤは「裁かれる民」あるいは「裁きの下にある民」を意味するからである。ラオデキヤの裁きは究極的には、ダニエル書で封印が解かれた知識を彼らが拒むことに基づいている。

ネブカドネツアルは、アメリカ合衆国の共和主義の角と真のプロテスタント主義の角の双方の象徴であり、またその始まりから終わりに至るまでのアメリカ合衆国の象徴でもある。ダニエル書第4章と第5章に至ると、ネブカドネツアルは1798年の「終わりの時」を表し、ベルシャツアルは日曜法を表していることがわかる。ネブカドネツアルは、「七つの時」の懲罰の終わりに、回心して子羊のような統治者となったが、彼の子は滅びの直前に竜のように語るに至る。

「バビロンの最後の統治者にも——予表においてその最初の統治者に対してそうであったように——神の見張り者の宣告が下った。『王よ、…これはあなたに告げられたこと。あなたの国はあなたから取り去られた。』ダニエル 4:31。」 Prophets and Kings, 533.

ダニエル書第1章は、1840年8月11日から1844年10月22日までのミラー派運動の歴史を表している。また、2001年9月11日から日曜法に至るまでの時期をも表している。さらに、それは、1798年から日曜法に至るまでのアメリカ合衆国の歴史を表す第二の預言的象徴でもある、三天使の使命の第一のものを表している。

おそらくダニエル書第1章の最も重要な位置づけは、ダニエル書と黙示録を合わせた預言書全体において最初に言及される事柄であるという点にある。それは、預言を学ぶ者が習得すべき三つの預言的試験のうちの第一である。後に続く試験に合格するために、それは「食べ」なければならないものである。

『初期の著作』においては、これらの記事ですでに何度も引用したように、ホワイト姉妹は一つの段落の中でキリストの時代における三段階の試練の過程を示し、続く段落でミラー派の歴史における三段階の試練の過程を示している。彼女は、キリストの時代にヨハネのメッセージを拒んだ者たちは、イエスの教えから益を受けることができなかつた、と述べている。次の段落は、見ようとする者には、ミラー派にとって最初の試練はウィリアム・ミラーその人であったことを明らかにしている。ホワイト姉妹は、彼がバプテスマのヨハネとエリヤの双方によって型示されていると述べる。この最初の試練の二人の証

人は、ダニエル書1章がエリヤのメッセージであることを確証する。もし第1章が拒まれるなら、第2章と第3章から何の益も得られない。

イエスと第二の天使は、それぞれの歴史において、バプテスマのヨハネと第一の天使に続いた。イエスの後には十字架における裁きがあり、調査審判が始まったとき第三の天使が到来した。十字架での弟子たちの失望は、1844年10月22日の大失望を象徴している。ダニエル書第1章は、バプテスマのヨハネとウィリアム・ミラーによって表されるエリヤであるが、第2章と第3章から切り離すことはできない。これらの章は一体となって永遠の福音であり、それは常に、礼拝者を二つの階級に区別し、やがて分離する三段階の予言的試練のメッセージである。ゆえに、これら三章を切り離すなら、それは異なった福音となる。

しかし、たとえ私たちであっても、また天からの御使いであっても、私たちがあなたがたに宣べ伝えたものとは異なる福音をあなたがたに宣べ伝えるなら、その者は呪われるべきです。前にも言ったとおり、今また言います。もし誰かが、あなたがたが受けたものとは異なる福音をあなたがたに宣べ伝えるなら、その者は呪われるべきです。
ガラテヤ人への手紙 1:8、9。

ダニエル書一章は、契約の使者が自らの神殿に突然来るための道を備えるとともに、荒野で叫ぶ声をも表している。荒野は、聖所と軍勢が踏みにじられている、民が散らされる時期として示される。ダニエル書一章では、ダニエルは荒野にあり、散らされ、奴隷とされている。一章のメッセージは二章のメッセージへの道を備え、そこではキリストがレビの子らを清め、彼らと契約を結ばれる。レビの子らは、アロンの金の像の危機においてモーセの側に忠実に立ったゆえに、神に選ばれた民の象徴とされており、ダニエル書三章もまた金の像の危機である。

シャデラク、メシャク、アベデネゴは、「獣の像」という黄金の偶像の試練に先立って清められたレビ人たちのようなものだ。式典ではネブカドネザルが楽隊を用意し、ツロの淫婦が歌をうたい、背教した霊的イスラエルはひれ伏し、その音楽に合わせて黄金の偶像の周りで裸で踊る。

ダニエル書と黙示録は同じ書であり、アルファでありオメガであるキリストが、いまイエス・キリストの黙示を表すその書の封印を解いておられる。彼がその書にまず最初に置く真理は、三天使のメッセージである。ダニエル書の最初の三章が、三天使のメッセージである。黙示録十四章におけるその三天使のメッセージに結びつく諸真理は、それらが最初にダニエル書の最初の三章で言及されていると認識されるとき、完成へと至る。黙示録十四章では、それらは永遠の福音とされ、天を飛翔しており、ゆえに終わりの日に全世界に示されるメッセージであることが明らかにされている。ダニエル書の最初の三章では、そのメッセージを世界に運ぶ男女の経験が描かれている。黙示録十四章は、象徴によって三天使のメッセージを表す外面的な真理の線である。永遠の福音と三天使それぞれのメッセージは、ダニエル書の最初の三章に表される内面的な真理の線によって完成へと導かれる。

最初の三章は多くの素晴らしい真理を示しており、その一つは、三つのメッセージが、食事に関するテスト、次いで視覚的なテスト、さらにそれに続くリトマス試験から成る

三段階の試験であるということだ。無論、これら三つのテストの呼び方にはほかの言い方もあるが、そうした呼称は第一章にはっきり見て取ることができ、さらに第一章から第三章にかけても改めて見て取ることができる。この三つの章は、一つの象徴としてまとめて認識されなければならない。

「第一と第二のメッセージは1843年と1844年に与えられ、私たちは今や第三のメッセージの宣布のもとにある。しかし、三つすべてのメッセージは今なお宣べ伝えられなければならない。真理を求める人々にそれらが繰り返し語られることは、今もかつてと同様に不可欠である。私たちは筆と言葉をもって、その順序と、私たちを第三天使のメッセージへと導く預言の適用を示しつつ、その宣言を響かせねばならない。第一と第二なしに第三はありえない。出版物や説教において、預言的歴史の流れの中で、すでに起こった事柄とこれから起こる事柄を示しながら、これらのメッセージを世界に与えるのである。」『選ばれたメッセージ』第2巻、104、105頁。

第二章と第三章の実際の歴史上の間隔が一日であれ、一週間であれ、二十年であれ、問題ではない。これらの章は、三つの試練が段階的に試されていくことを象徴的に示している。ネブカドネザルは、預言者ダニエルを通して神が自分の夢を知り、その夢に対して真理としか理解しえないほど確かな解釈を与えたことに、目を見張り、驚嘆した。ところが第三章では、ネブカドネザルは第二章で示された第二の試練に失敗した。というのも、彼は、秘められた夢の神意を明らかにした神の力の驚くべき現れよりも、自分の高慢な人間的欲望を上を置くことを決意したからである。

第3章で金の像を築いたことによって、彼は第三の試金石に合格しなかった。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴはその試金石に合格した。ネブカドネザルは獣の刻印を受け、三人の忠実な者たちは神の印を受けた。ダニエル書の最初の三章は、黙示録14章の三天使の文脈で理解されなければならない。これら三章は平易で、キリスト教の子どもたちの物語としてしばしば用いられるほど明快であるが、実は神のことばの中でもおそらく最も深遠な三章に当たる。

次の記事ではダニエル書第3章に進みます。

異教の王ネブカドネザルが歩んだ道に見られる虚栄と圧制は、私たちの時代にも見られ、今後も見られ続けるだろう。歴史は繰り返される。この時代において、試しの焦点は安息日の遵守に置かれる。天の宇宙全体は、人々がヤハウエの律法を踏みにじり、神の記念であり、彼とその戒めを守る民との間のしるしであるものを、無きに等しいもの、侮るべきものとして扱い、同時に、デュラの平地における大いなる金の像のときのように、別の安息日が高く掲げられるのを見ている。自らをキリスト者と称する人々は、自分たちで作り上げたこの偽りの安息日を守るよう世界に求めるだろう。これを拒む者は皆、抑圧的な法律の下に置かれる。これは不法の秘義であり、サタン的諸勢力のたくらみであって、罪の人によって実行に移されるものである。『The Youth's Instructor』1904年7月12日